

琵琶湖線（東海道本線）における車両トラブルの原因と対策について

2025年3月5日に琵琶湖線（東海道本線）京都～山科駅間で発生させた車両トラブルについて、原因が判明しましたので対策と合わせてお知らせします。

お客様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、再発防止に努めます。

1 発生日時

2025年3月5日（水） 10時24分頃

2 発生場所

琵琶湖線（東海道本線） 京都～山科駅間

3 列車名

下り特急電車『サンダーバード13号』 9両編成
大阪駅（9時41分）発 敦賀駅（11時02分）行
ご乗車のお客様：約270名

4 概 況

10時24分頃、当該電車の運転士は、京都～山科駅間を走行中に運転台の表示に異常がある旨を大阪指令所に連絡しました。このため、当該電車は大津京まで運転を再開し、大津京～敦賀駅間の運転を取り止めました。

※ご乗車のお客様には後続の『サンダーバード号』をご案内しました。

5 列車影響

＜運休＞当該電車のみ

＜遅れ＞上り新快速電車[姫路（8：55）発 草津（10：50）行]が54分遅れたのを
最大に、計29本（上り20本、下り9本）に遅れ

＜影響人員＞約10,900人

6 原 因

乗降扉の空気配管（ナイロンチューブ）が外れ、空気漏れが発生し、運転台の知らせ灯が消灯したためです。

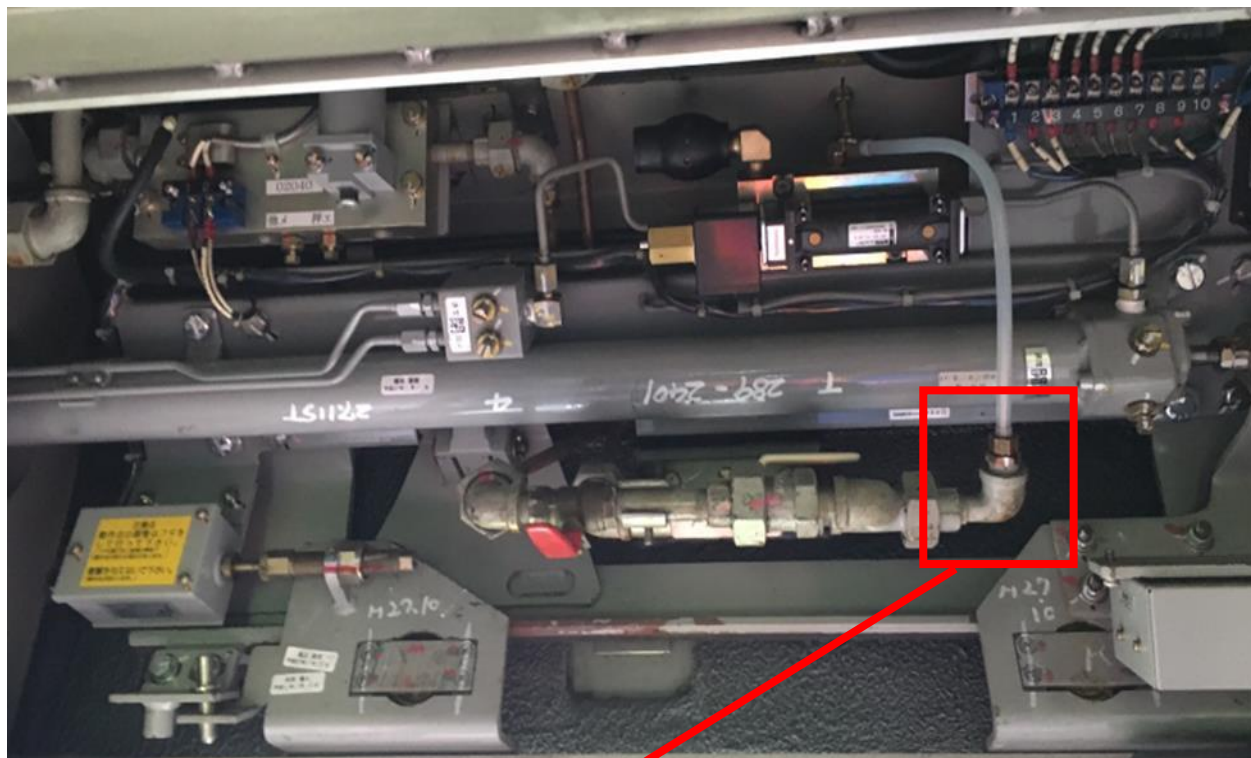
※ナイロンチューブが外れたのは取付が不十分であったためと推定されます。

※知らせ灯とは、乗降扉の閉扉状態を確認するための表示灯です。

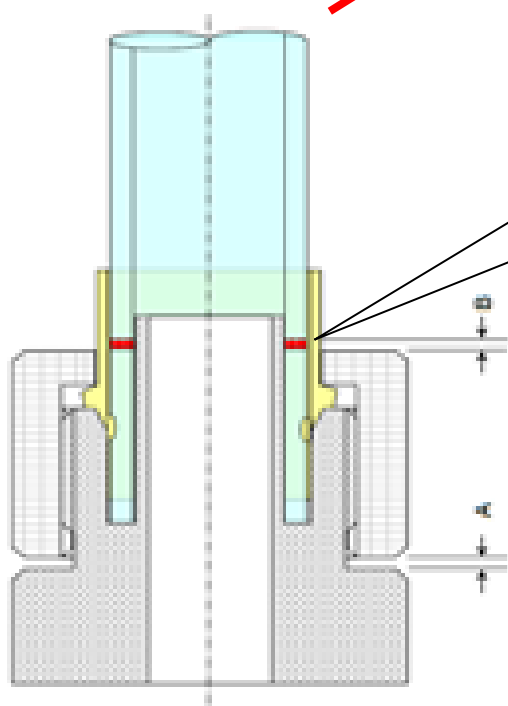
7 対 策

- ・ナイロンチューブの取付及び確認方法を再周知しました。※別紙参照
- ・同種部品（ナイロンチューブ）を使用している装置の一斉点検を実施しました。

別紙 取付イメージ図



(画像は正常な取付状態のもの)



チューブのラインがナット端面にある
ことで、正常な取付状態であることが
確認できる